

061225 2学期終業式 校長講話

札幌市立あやめ野中学校 校長 大高 雅子

今日で2学期が終わります。

あなたは今年、どのような目標をもってスタートしましたか。

2学期の9月から今日までの4か月間、その目標を達成するために

何に取り組み、何をやりきることができましたか。

8月25日に「2学期こそが1年の味を決める」というお話をしました。

あれから4か月。今日、ひとつの区切りが終わります。

フレッシュな気持ちと「しっかりやるぞ！」という意識が、
ある程度持続していた1学期。

あっという間に終わった夏休みを経て、
2学期は、前期のテスト、行事の準備、部活や習い事などをはじめ、
自分がやらなければならないことの連続だったと思います。

「やらなければならないこと」をため込まないためには、
自分に合ったやり方を見つけることです。

コツコツとひとつひとつ確実に終わらせていくことが合っている人
一気に着手し、少しずつ進めながら同時に全体を終わらせていく人。
では、自分に合ったやり方はどうやって見つけるのでしょうか。

その方法は一つです。

それは、頭で考えるより、まず行動することです。

行動するために必要なことは、「素直さや謙虚さ」そして「信じる力」。

一途に一生懸命やってみたその先に、自分らしいやりかたが見つかるのです。

あなたが尊敬しあこがれる人を心に思い浮かべてみてください。

人の心を動かし感動を与える技術や人間性。

それらは生まれた瞬間に身に付いているものではありません。

身に付けるためのプロセスが、確かにあったはずなのです。

「やらなければならぬこと」には終わりがあり、その時々で変わっていきますが、人として成長することには終わりがありません。

塗り替えていくものでなく、毎日毎日、小さな経験、大きな出来事を通して積み重ねながら成長していくものなのです。

【例え】 嘘をついてしまった → 反省と後悔の気持ちをもった →

次は絶対に嘘はつかないぞ、 とか、

相手に伝わらなかった → 自分の伝え方に原因があるかも知れないと振り返った → 次こそは真に相手の立場に立って伝えるぞ、

というように、「考え方」していくことです。

事実を認める、自分と向き合う、次への決意をもつ これが意識することで

す。

人は変われる、という言葉は、ある日何かが降臨して変わるという意味ではありません。

自分の課題と向き合い、それを克服しようとする気持ちで、少しづつ意識を変えながら、心を成長させていくことができる、そういう意味なのです。

そして最後にもうひとつあります。それは、身に付けた力を正しいほうに向かって使う力です。素直で謙虚に受け止める力があり、確実に自分らしく物事をこなせたとしても、その結果が人を傷つけたり、環境を壊したりするといった方に向かわないことが大切だと思うのです。

正しく判断し、事を成す、という道しるべ、それが「やさしさ」だと、私は思っています。

やさしさは、ものすごく小さなことからとてつもなく大きなことまでを含んだ言葉ですが、これから時代に大切な「強み」になると思います。

やさしさとは、他者の立場に立って深く考え、寄り添う能力です。

ひとつ、自分に合ったやり方を身に付ける

ふたつ、そのために、素直に、謙虚に受け止め、まじめに努力する

みつつ、その努力が、優しさや思いやり、周りを幸せにする方に向かうこと

「心を成長させていくこと」は、A I 時代が到来した今だからこそ、

私たち人間のブレない「強み」なのです。

3年生の皆さん。

「努力をすれば、必ず得るものがある」

私は、この2年間のあなたたちの成長の姿を見てきました。

努力する過程で“掴んだ”ものは、あなたの力になります。

焦りや不安をも味方にし、自分と向き合いながら、頑張ってください。

心から応援しています。

これで、私の話を終わります。